

松本市内のホウライシダの分布

横内 文人*・横内 怜子

Fumito Yokouchi and Reiko Yokouchi

1. はじめに

ホウライシダ *Adiantum capillus-veneris* は、ホウライシダ科ホウライシダ属に属し、日本では本州(伊豆七島)、四国(高知、愛媛県)、九州(種ヶ島、奄美大島)に分布する。他の産地(神奈川、静岡、和歌山、広島、福岡、長崎、大分、宮崎、熊本県)は、国内帰化植物として扱われている。

ホウライシダは常緑性のシダで、水気の多い場所に生育する。根茎は短くて、はう。葉は接近して出て高さは10～25cm、葉柄や中肋は紫褐色で光沢があり、細い。葉面は柔らかい草質、軸が何回も2又分枝を続け、その最後に小羽片をつけている。そのため中肋や軸は真っすぐではない。小羽片は四辺形状扇形、上辺が数個に浅～中裂する。その裂片ごとに裏へ折れ返り、その裏側に胞子のう群がついている。

ホウライシダの学名 *Adiantum* は“濡れない葉”、*capillus-veneris* は“ビーナスの髪”を意味している。ホウライシダに近縁のシダ植物には、クジャクシダやハコネシダがある。ホウライシダの葉柄は光沢のある紫褐色、クジャクシダのそれも光沢のある紫褐色、ハコネシダは黒紫色である。それぞれが美しい色の葉柄をしている。ホウライシダの葉柄の美しさが、栽培の由来であろう。

ホウライシダは、台湾に自生が多いので、台湾の雅名の高砂に関連してホウライ(蓬莱)の名前がついたものである。

2. 松本市内のホウライシダの分布状況

筆者らは2019年9月3日に松本市藤森病院東入り口 標高約590m(松本市中央2-9-8、旧・小池町通り)の水路脇で採集し、標本を信州大学自然科学館(SHIN 69658)・長野県環境保全研究所(NAC)・安曇野市豊科郷土博物館へ寄贈した。

松本市内のホウライシダの分布は、佐藤・ほか(2008)、田中・佐藤(2008)によって報告され

ている。その生育地は松本市美術館(松本市中央4-2-22、旧・国府町)の北側の用水路(榛の木沢)である。

松本市美術館と松本市藤森病院とを結ぶのは、榛の木沢とその支流である。松本市美術館やその周辺一帯は、地下水が豊富で近隣には「清水」「源池」「埋橋」「巾上」「渚」等の地名がある。美術館裏近くから西流する榛の木沢は、用水路の縁が多く石垣によって成り立ち、ホウライシダの生育に好適地となっている。コンクリート製の石垣でも破損した継ぎ目の所にも生育が認められた。しかし、現在は松本市美術館周辺では、全く見当たらない(2019年12月16日調査)。

今回、筆者らは松本市内のホウライシダのより詳しい分布を把握すべく、調査を進めた。特に松本市美術館周辺から高砂通り～藤森病院東入り口への用水路を重点的に調査した。その結果、ホウライシダは、かなりの産量が分布していることが分かった(図1)。いずれの生育地も“榛の木沢”と呼ばれる湧水が流れる用水路とその支流(蛇川)の石垣である。側面が一面のコンクリート製の壁では生育できず、石垣の透き間には生育していた。生育地は湧水が常時流れて冬場でも暖かく、凍結することはない。地中の水分も豊富にあり、また空気中の湿気も適度に保たれている。これらの好条件によって分布が広がり、かつ産量も増加したものである。榛の木沢や蛇川に流れ込む細流もある。

ホウライシダは最初、松本市内では松本市美術館裏周辺で観賞用に栽培が始まったものと考えられる。それ以降は榛の木沢とその支流の蛇川に沿って分布が広がったものであろう。松本市美術館裏の榛の木沢は、中村眼科の駐車場北側～源智の井戸～高砂通りへと西流している。その一部は支流の蛇川となって藤森病院東入り口～本町(信毎メディアガーデン北側)へと西流する。これより下流は、ともに用水路にコンクリート製の蓋がされており、水路が全く見えない状態である。なお信毎メディアガーデン北側の水路にも生育していた。2020年春の水路工事により、長さ約35m、幅1.3mにわたってコンクリート製の蓋をされて、拡幅された車道になり、

* 横内文人 〒399-7402 長野県松本市会田110

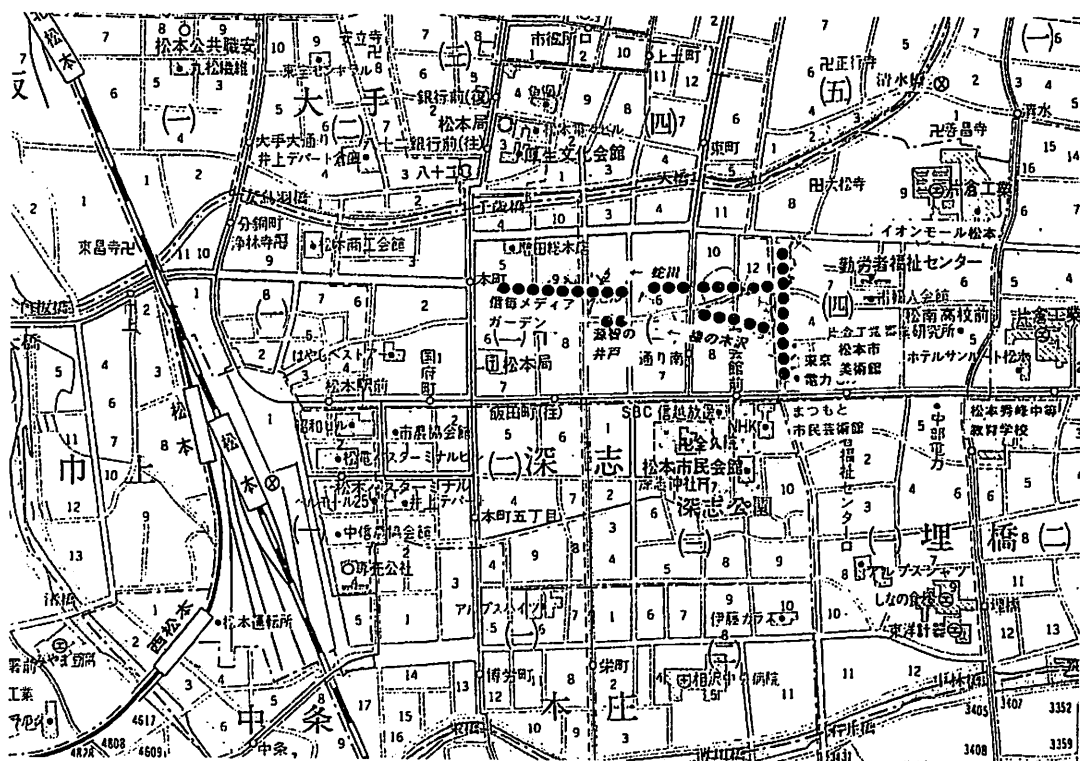


図1 松本市内のホウライシダの分布

ホウライシダは絶滅した。その上流側には、現存する。

2020年は主として榛の木沢・蛇川・紙漣川等の湧水に関連する用水路、2021年は大門沢川、湯川、長沢川、穴田川・女鳥羽川等の大小の河川を調査した。しかし、榛の木沢・蛇川以外には、ホウライシダは全く見当たらなかった。

土田ら(1996)の調査では、松本市内でのホウライシダの報告はない。ホウライシダは1996年に降に分布したものと考えられる。松本市内での初報告(2004年ころ)から2019年の間に分布が広がったものと考えられる。

3. 考察

松本市産のホウライシダは、長野県内では唯一の産地である。松本市美術館裏周辺で栽培されたものから、分布が広がったものと考えられる。榛の木沢や蛇川の用水路は常に湧水が流れており、真冬でも凍結することはない。ホウライシダの生育には好適地と考えられる。

松本市産のホウライシダは、国内帰化植物の好例でもある。地球の温暖化の影響も当然考えられる。今後もホウライシダの松本市内の新分布地の確認と産量の変化を追加調査する予定である。

シダ植物の帰化例は極めて少ない。これからも暖

帯系のシダ植物の動向に目を向ける必要がある。

4. 参考文献

- 大塚孝一 2004 長野県のシダ ほおずき書籍
- 倉田悟・中池敏之 1979 日本のシダ植物図鑑 I ,p.80 ~ 84 東京大学出版会
- 佐藤利幸・ほか 2008 長野県植物研究会誌 41:1 ~ 10 長野県植物研究会
- 田中崇行・佐藤利幸 2008 長野県植物研究会誌 41:11 ~ 17 長野県植物研究会
- 清水建美(監修) 1997 長野県植物誌 信濃毎日新聞社
- 杉本順一 1966 日本草本植物総検索誌 シダ編 六月社
- 土田勝義・井上健・菅原敬・正木照久・松田行雄・横内文人・豊国秀夫(1993年に逝去) 1996 松本市植物目録 松本市史第1巻自然編 p.834 ~ 901 松本市
- 長野県外来植物目録 2018年版 p.11 長野県外来植物目録編纂委員会
- 長野県植物目録 2017年版 p.13 長野県植物目録編纂委員会
- 牧野富太郎 1961 牧野新日本植物図鑑 北隆館
- 横内文人 2021 松本平の植物 186p. クラフト舎